鹿児島市立桜丘中学校
令和４年９月２日

第５号

「テセウスの船」と「桜丘中学校」

校長　上久保大介

令和２年１月、日本に新型コロナウイルスの脅威が迫っていたころ、**「テセウスの船」**というドラマが放送されていました。

この題名の元になったのは**ギリシャ神話**です。

> アテネの人々は、テセウスがアテネの若者と共にクレタ島から帰還した**船を**後々の時代のために**保存**していました。このため、**朽ちた木材はそのたびに新しい木材に置き換えられ、やがてすべてが新しい木材に**なってしまいました。ここで疑問が生じます。新しい木材に置き換えられたテセウスの船は、以前の船と**同じ船か**、**違う船か**。

学校も**「テセウスの船」**と同じように、**毎年生徒が変わり職員が変わります**。ならば、今の桜丘中学校は、４３年前に開校したころの桜丘中学校と同じなのか、違うのか。難しい問題ですが、これは桜丘中学校をどう見るかという視点によって、考え方が変わります。

学校は**人的**に見ると「テセウスの船」の木材と同じように、**入れ替わり**があります。しかし、「テセウスの船」と**違う点**は、木材が朽ちたから新しい木材に置き換えられ捨てられたのに対し、**人は足跡を残し、成長して育ったから入れ替わりがある**という点です。これには雲泥の差があります。育っていった人材が残した足跡は、桜丘中学校の伝統として残っていきます。例えば、自分で時間を見て自主的に動く**「ノーチャイム」**がそうですし、無言で取り組む**「無言作業」**もそうです。これらを実践し続け、先輩方が築いてくださった**これまでの歴史に恥じない**ように、しっかりと次の世代に引き継いでいくことは、**今を生きる人たちの責任**でもあります。

また、コロナがなかったら、この２年半は以前と同じような不自由のない教育活動ができていたはずです。しかし、コロナで変化をさせられた**この２年半も知恵と工夫によって、充実した活動**ができていたと思います。コロナにより、時間軸の流れは変わってしまったように思われがちですが、コロナがあってもなくても**桜丘中では変わらないこと**がいくつかあります。その中の一つが、コロナなどにより時代や社会が変化しても、その流れに柔軟に対応できるという点です。また、**素直に勉学に励み、スポーツに挑み、仲間を増やしていける点についても、今も昔も変わらない桜丘中の良い面として引き継いでいってもらいたい**と思います。

２学期が始まりました。**今学期もよろしくお願いします。**